

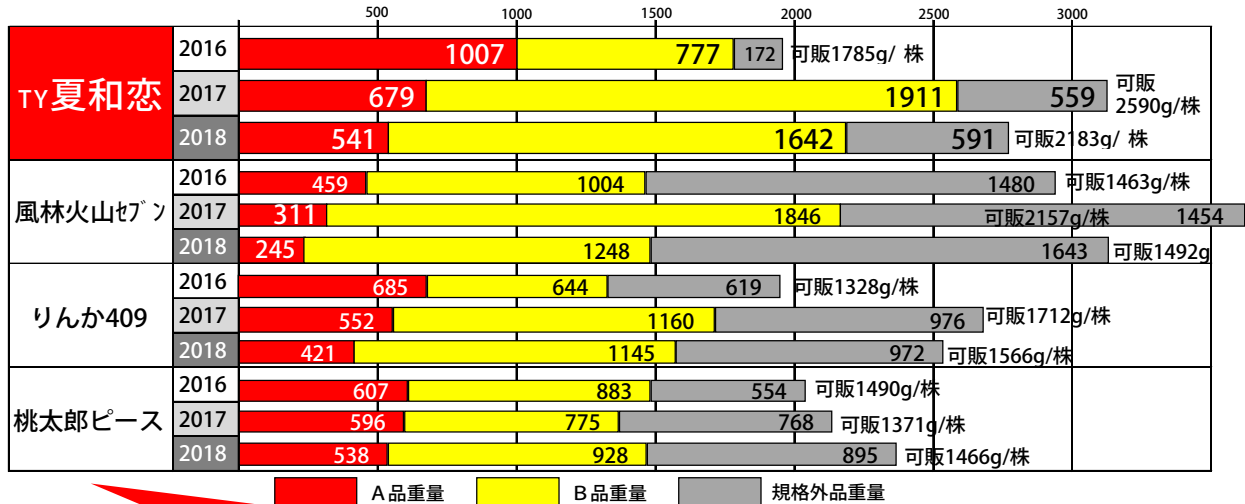
「夏和恋」が猛暑の抑制作で発揮するパフォーマンス

奈良県平坦地（当社農場）で過去3年間行われた
真夏の短期抑制作型での調査データをご覧ください。

ナント種苗飛鳥農場での過去3年(2016~18年)の短期抑制作における品種ごとの株あたり収量

間口4.8m 旧型低軒パイプハウス 2畝2条 株間40cm 自根栽培 トマトーン交配

- ◆2016年:6/17播種・7/9定植・9/3~11/1収穫
- ◆2017年:6/14播種・7/13定植・8/27~11/2収穫
- ◆2018年:6/9播種・7/7定植・8/25~10/29収穫



「夏和恋」が過去3年連続、
A品収量第一位！可販果収量第一位！外品率の低さ第一位！
抑制作で代表的とされる他社品種との対比でも圧倒的な好成績。

関東平野部の抑制産地で過去2~3年行われている試作においても、
ほとんど同様の結果・感想が述べられており、本年より本格採用がスタート！

POINT ①: 今までにない耐裂果性



展示圃における「夏和恋(右)」と「対照品種(左)」。ガク周りのコルク化が小さく、夏場の放射状裂果に対しても最強クラス。

POINT ②: 今までにない高温着果性



2018年茨城県にて撮影。過去にない酷暑となった抑制作で「夏和恋」は低段から中段においても確実に着果・肥大。

POINT ③: 馬力旺盛も素直に生育



「夏和恋」は草勢は旺盛ですが、芯止りも僅少で素直に生育。中段以降もスタミナ発揮。ただし、強すぎる場合は空洞果発生の可能性があるので慣行よりもおとなしめの台木選定と元肥減肥が無難。写真)最終段で丸々肥大した果実。
POINT ④: おとなしめの台木選定を。

POINT ⑤: 節間長めなので誘引が必要



一般に抑制作で使用されている短節間品種と比べ、節間がながくなります。2018年茨城県産地の抑制作データでは8段目収穫に至るまでの節間長が「ピース」よりも約30cm長いとの結果。その分、誘引が必要。

猛暑の抑制作では、遮光・最大限の換気・少量多灌水・通路灌水に努め、
高温・乾燥によるストレスを極小化。トマトーン倍率にも要注意（真夏は200倍）！